

# 大豆を栽培し、味噌の加工を行った

## Pomaikai農園

### 活動の目的

自然に触れること、種から育てること、食について関心をもつことで、『循環』について考え、社会や自然環境、生きるとはということについて考えられる環境を作りたいと思い、取り組みを始めた。

大豆は土が痩せていても比較的栽培しやすく、植えることで土が肥える性質を持っている作物である。ここ牛窓でも年々増えている耕作放棄地が問題となっており、そのような土地で大豆を育てることで、土地を有効活用することができる。

また大豆で伝統的な調味料の一つである味噌をすることにより、伝統的な食文化の保護・継承につながると考える。

### 活動の内容及び経過

2020年4月、参加者家族で集まり開墾と水はけ改良などの土づくり、トラクターによる耕運を実施。5月に害獣よけの柵の設置をし、6月に鍬で畝をたてて、大豆の播種を行った。7～9月は1か月に2回ほど、草刈りや土寄せといった大豆の管理作業を行った。講師を呼んで勉強会をする予定であったが、コロナの感染予防の観点から中止とした。

2021年2月、参加者家族で集まり、Pomaikai農園の屋外にて火を焚き、大豆をゆで、1人あたり6キ口の味噌を仕込んだ。

7～9月の管理作業以外は、申し込みした全家庭からの参加があった。

### 活動の成果・効果

開墾、草刈り、水はけの改善作業など、自分たちで考えながら取り組むことで、自然や畑に目を向けることができた。もっとこうした方がいいとか、栽培方法を調べて検討するなど、活発な意見の交換もなされ、メンバーそれぞれが主体的に取り組んでいた。

今回は害獣が柵を超えて入ってしまったり、梅雨の長雨で大豆が上手く栽培できなかったが、それぞれ作物を育てる難しさを感じたようである。

味噌づくりでは屋外で火をたくところから行った。1人で言うと重労働だが、皆でやることでとてもいい雰囲気の中、楽しくスムーズに作業が進んだ。男性の参加も多くみられた。

### 今後の課題と問題点

年齢層が30～40代と同じような世代に偏っているため、子供を含めたいろいろな世代と活動していきたい。初年度ということもあり、大豆の栽培がうまく行かなかったので、



①畑づくり。この日は溝掘りとトラクターかけ。



②畝たてと種まき。



③開放的なハウスでお味噌づくり。



④各家庭の一年間の味噌を仕込みました。

柵の強化や水はけの改善などが必須である。また6月～7月の種まきや手入れが多く必要な時期に、天候や被害によって栽培スケジュールが左右され、参加者への周知が直前になってしまったため、参加者が少ないことが多かったので、やり方を改善したい。

味噌づくりでは必要な材料である塩や麴(米)も自分たちで作りたいとの声もあった。

- 代表者：佐藤朋子
- 所在地：瀬戸内市牛窓町鹿忍
- URL：<http://www.pomaikainoen.com>
- 設立年：2014年
- メンバー数：4名